

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K03040

研究課題名(和文)心理臨床家と工芸職人の専門家アイデンティティの世代継承性:継承プロセスと心理力動

研究課題名(英文)Generativity of Professional Identity in Clinical Psychologists and Art Craftsmen

研究代表者

岡本 祐子 (Okamoto, Yuko)

広島大学・人間社会科学研究科(教)・名誉教授

研究者番号：90213991

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文): 本研究は, Erikson, E.H. の提唱したアイデンティティ論と世代継承性 Generativity論を基盤に, 心理臨床家と工芸職人を対象に, 専門家アイデンティティが, 上の世代から自世代, さらに次世代へ継承されていくプロセスとその心理力動を, 師弟関係の視点から分析した。専門家としてのアイデンティティもまた, Eriksonの精神分析的個体発達分化の図式に示された8つの心理社会的課題と危機を経て形成・発達していくことが実証的に示された。さらに, コロナ危機の時代に「危機を経験する」ことの心理学的考察, 「経験の語りを聴く」営みから生まれた「人生の危機」の具体が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代社会は, 伝統文化, 学問, 専門的技術など, 上の世代の経験や技, 精神の継承がさまざまな困難に直面し, 世代継承性の危機の時代と言われている。また, 成人期におけるアイデンティティそのものの危機については, 本科研の代表者 岡本祐子の研究によって明らかにされてきた。しかし, 専門家アイデンティティの形成と次世代への継承の実態は未解明である。本研究は, この課題に焦点を当て, 実証的に検討したものである。本研究は, 次の2点において意義が認められる。1. 現代社会における専門性の世代間継承が達成されるための視点と方法を示唆した。2. 心理学界において未解明の「世代継承性」の研究の基盤と知見を提供した。

研究成果の概要(英文): The purpose of this study was to clarify the process and psychodynamics of achievement and succession of professional identity of clinical psychologists and traditional craftsmen from the former generation, my generation and next generation. It was positively suggested that professional identity was acquired by achieving eight psych-social tasks in Erikson's Epigenetic Scheme.

The psychological meaning of "experience crisis" in Covid-19 was discussed.

研究分野：臨床心理学

キーワード：世代継承性 専門家アイデンティティ 心理臨床家 工芸職人 心理力動

## 1. 研究開始当初の背景

今日は、世代継承性の危機の時代と言われている。継承者がいないために途絶えようとしている高度な文化・芸・専門分野が、現代社会に多数存在すること、戦争体験など、継承されるべき過去の重要な事実が語り継がれないことなど、さまざまな面で上の世代の経験や知恵が受け継がれない事態が生じている。

「世代継承性」Generativity は、Erikson, E.H.(1950)が提唱した精神分析的個体発達分化の図式によると、中年期の心理社会的課題である。これは、次世代へ深い関心をもって関わり、育み・育てることを意味し、ライフサイクルを通した人間発達にとって不可欠の課題とされている。世代継承性については、親が子どもを育てる営みに関する研究は数多く行われているが、専門家アイデンティティの形成と次世代の育成についての心理学的研究は乏しく、その実相は解明されていない。研究代表者(岡本祐子)は、これまで、青年期に一応のところ獲得されたアイデンティティがその後の成人期において、どのように発達・変容・深化していくかを面接調査の手法を用いて、実証的、質的に検討してきた。その結果、アイデンティティは、成人期の危機に遭遇する毎に、再度問い直され、再体制化されて、発達していくことが示され、これを「成人期におけるアイデンティティのラセン式発達モデル」と名付けた。本研究は、この知見を土台に、専門家としてのアイデンティティの発達・変容に焦点を当て、その危機と発達プロセスを実証的に解明することをねらいとした。専門家アイデンティティは、青年期に獲得されたアイデンティティを土台として、専門世界に参入することによって、構築され深化していると考えられるが、その発達・危機・変容のプロセスは、実証的研究としては未検討である。専門家アイデンティティの獲得には、指導者・師・先生との関係性も重要な役割と意味を持つ。本研究では、専門家アイデンティティの獲得・深化のプロセスにおける師弟関係に注目して、継承プロセスと心理力動を検討した。

## 2. 研究の目的

本研究は、Erikson の提唱した精神分析的個体発達分化の図式の第 7 段階(中年期)の心理社会的課題・危機である「世代継承性」の発達・変容の心理的プロセスとその心理力動を実証的に解明することを目的とした。専門的職業のうち、心理臨床家と工芸職人を対象として、それぞれの専門家アイデンティティが、上の世代から自世代、さらに次世代へ継承されていくプロセスとその心理力動を、師弟関係を中心としたミクロなレベルで分析することを目的とした。

## 3. 研究の方法

対象者：心理臨床家および工芸職人 日本人 5 名、アメリカ合衆国 5 名。

方法：対面による面接調査。対象者 1 名につき、それぞれ 10 時間程度(2 時間/回の面接を数回)の調査を行った。

面接調査の内容：生育環境の中で身についた特質、青年期のアイデンティティ形成、職業選択後の危機・転機、専門家としての仕事への関与の仕方とその変化、熟達のプロセス、次世代へ伝えるものとその継承の仕方について。

## 4. 研究成果

本研究期間中は、新型コロナ感染症の拡大ため、海外での研究調査は断念せざるを得ず、国内の対象者に限定して面接調査を行った。国内の対象者も、対面による調査はかなり制限される社会的状況のため、当初の予定どおりには、十分な面接調査は実施できなかった。しかしながら以下の 6 点は、本研究の知見として今後の研究につながる有意義な成果と考えられる。

本研究の面接調査の手法を、対象者の専門家アイデンティティの発達と世代継承の特質をとらえるための「経験の語りの聴き方、語り手への向き合い方」として提示した。この内容は、日本心理臨床学会 2020 年度年次大会ワークショップにて、講演を行った(演題 リサーチクエスチョンを心理臨床の質的研究につなぐ「経験の語り」の聴き方、語り手への向き合い方)。

本科学研究の集大成として、研究代表者によるアイデンティティと世代継承性に関する研究を「経験の語りを聴く」という視点から、著書としてまとめた。本書は、コロナ危機の時代に「危機を経験すること」の心理学的考察、「経験の語りを聴く」営みから生まれた「人生の危機」の研究、専門家アイデンティティを形成する土台となる三位一体(1 人称, 2 人称, 3 人称の心理学)、世代を超えた「自己」とアイデンティティの具体から構成されている。本書は、2022 年 9 月に、岡本祐子著『経験の語りを聴く：人生の危機の心理学』としてナカニシヤ出版から刊行された。

## 主要目次:

- 第1章 コロナ時代に心を育てる・心をつなぐ
- 第2章 「経験の語りを聴く」営み
- 第3章 心の中に<問い>をもつ
- 第4章 アイデンティティの危機から成人期の人生をとらえる
- 第5章 「教育的関係性」再考
- 第6章 「経験の語りを聴く」をめぐるディスカッション
- 第7章 「経験の語りを聴く」営みから生まれた「人生の危機」の研究
- 第8章 現代青年のアイデンティティ再考: 青年の語りを聴く
- 補章 「世代継承性」と「中年の危機」再考。

面接調査より、心理臨床家を志すアイデンティティ形成において、自らの成長期における重要な他者との関係性の葛藤の気づきと昇華の力動が認められた。

工芸職人の専門家アイデンティティ形成においては、生まれ・育ちに埋め込まれた経験の影響が強くみられたが、青年期の職業選択と、その後のプロセスにおいて、作品の生成過程に自己の問い直しの心的作業が認められた。

心理臨床家と工芸職人のプロフェッショナル・ワークにおける共通の特質として、以下の点が示された。

1. 両者とも知的な仕事であると同時に、感性・イメージ生成が重要な働きをしている。
2. 両者とも、仕事に専門家自身の人間性が強く反映される。
3. 仕事の現場性(工芸職人の場合は、作品を作り続けること、心理臨床家の場合は、来談者と向き合う心理面接の「場」での仕事)が、その中核となり、プロフェッショナル・ワークの質を決定していく。
4. 専門世界での訓練の基本は、型・技を身に着けることである。

専門的職業における熟達のプロセスとして、以下の段階的特質が見出された。

- 第1段階 仕事に対する信 仕事世界における信頼感
- 第2段階 「仕事」を行うおもしろさの実感、同時に仕事世界の技・型を身に着けること 仕事世界における自律性・自主性
- 第3段階 この世界で「やれる」という感覚 仕事世界における勤勉性・有能感
- 第4段階 この世界に立つ・立てること 専門的職業の選択・専門家としての自立・専門家アイデンティティの獲得
- 第5段階 次世代の育成と継承、オリジナリティの表現と進化 専門家アイデンティティの継承・深化
- 第6段階 専門家としての仕事のまとめ 専門家アイデンティティの完結

このプロセスを、Erikson(1950)の精神分析的個体発達分化の図式から考察すると、上記のプロセスは、第1段階 基本的信頼感、第2段階 自律性、自主性、第3段階 勤勉性、第4段階 アイデンティティの獲得、第5段階 世代継承性、第6段階 人生の統合の心理社会的テーマが反映されていた。

Erikson(1950)が、人格発達分化の心理社会的課題として示唆したテーマは、専門的アイデンティティの発達と深化のプロセスにおいても基本的課題として存在することが示された。

今後の課題として、他の専門的職業に携わるより多くの対象者に面接調査を行い、本研究で得られた知見を深めていくことが重要である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 村井史香・岡本祐子	4. 巻 38
2. 論文標題 大学生の友人関係における"自認するキャラ"の形成・維持プロセスの検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心理臨床学研究	6. 最初と最後の頁 480-491
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村井史香・岡本祐子	4. 巻 15
2. 論文標題 中学生・大学生の"自認するキャラ"を介した友人関係とセルフ・モニタリングとの関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子ども発達臨床研究	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本祐子	4. 巻 271
2. 論文標題 書によって受け継がれる心とアイデンティティ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 墨	6. 最初と最後の頁 38-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本祐子	4. 巻 41
2. 論文標題 中年危機の心理学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ニュートン	6. 最初と最後の頁 100-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本祐子	4. 巻 1102
2. 論文標題 中年の危機	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 企業と人材	6. 最初と最後の頁 18-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真鍋一水・岡本祐子	4. 巻 37
2. 論文標題 生成要因とクライアントの影響からとらえた心理臨床家の臨床的価値観の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理臨床学研究	6. 最初と最後の頁 339-351
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木谷 智子、岡本 祐子	4. 巻 30
2. 論文標題 自己の多面性とアイデンティティ研究に対する今後の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 青年心理学研究	6. 最初と最後の頁 174 ~ 178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20688/jsyap.30.2_174	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木谷 智子、岡本 祐子	4. 巻 29
2. 論文標題 自己の多面性とアイデンティティの関連	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 青年心理学研究	6. 最初と最後の頁 91 ~ 105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20688/jsyap.29.2_91	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 岡本祐子
2. 発表標題 心理臨床の研究水準を高めるには 事例研究・量的研究・質的研究のコツと課題
3. 学会等名 日本心理臨床学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡本祐子
2. 発表標題 リサーチクエスチョンを心理臨床の質的研究へつなぐ 「経験の語り」の聴き方・語り手への向き合い方
3. 学会等名 日本心理臨床学会第39回大会ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 岡本祐子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 310
3. 書名 経験の語りを聴く 人生の危機の心理学	

1. 著者名 シュミット, スザンヌ, 岡本祐子監訳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Newton Press	5. 総ページ数 377
3. 書名 女性の中年危機	

1. 著者名 岡本祐子・上手由香・高野恵代	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 503
3. 書名 世代継承性研究の展望-アイデンティティから世代継承性へ	

1. 著者名 岡本祐子・能智正博, 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 419
3. 書名 質的心理学辞典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------